

製品名: KIR3.4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13031**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300 |
| 分子量 | 48kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | KCNJ5 |
| 別名 | KCNJ5; GIRK4; G protein-activated inward rectifier potassium channel 4; GIRK-4; Cardiac inward rectifier; CIR; Heart KATP channel; Inward rectifier K(+) channel Kir3.4; IRK-4; KATP-1; Potassium channel; inwardly rectifying subfamily J membe |
| 遺伝子 ID | 3762.0 |
| SwissProt ID | P48544 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト KCNJ5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 370-419 |

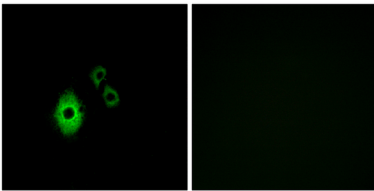
背景

カリウムチャンネルはほとんどの哺乳類細胞に存在し、様々な生理学的反応に関与しています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜貫通タンパク質であり、内向き整流型のカリウムチャンネルです。このタンパク質は、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向が強く、Gタンパク質によって制御されます。このタンパク質は、他の2つのGタンパク質活性化カリウムチャンネルと会合して、ヘテロ多量体ポア形成複合体を形成する可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: このカリウムチャンネルはGタンパク質によって制御されます。内向き整流型カリウムチャンネルは、カリウムを細胞外に流すよりも細胞内に流す傾向が強いという特徴があります。その電圧依存性は細胞外カリウム濃度によって制御され、細胞外カリウム濃度が上昇すると、チャンネル開口の電圧範囲はより正の電圧へとシフトします。内向き整流は、主に細胞内のマグネシウムによる外向き電流の遮断によって生じます。体外バリウムによって阻害される可能性がある。、類似性: 内向き整流型カリウムチャンネルファミリーに属する。、サブユニット: GIRK1 および GIRK2 と会合して、Gタンパク質活性化ヘテロ多量体ポア形成ユニットを形成する可能性がある。結果として生じる内向き電流ははるかに大きくなる。、組織特異性: 膵島、外分泌膵臓、心臓。、

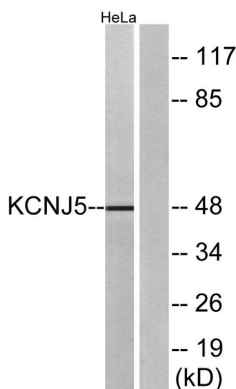
研究分野

-

画像データ



KCNJ5 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



KCNJ5 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。